

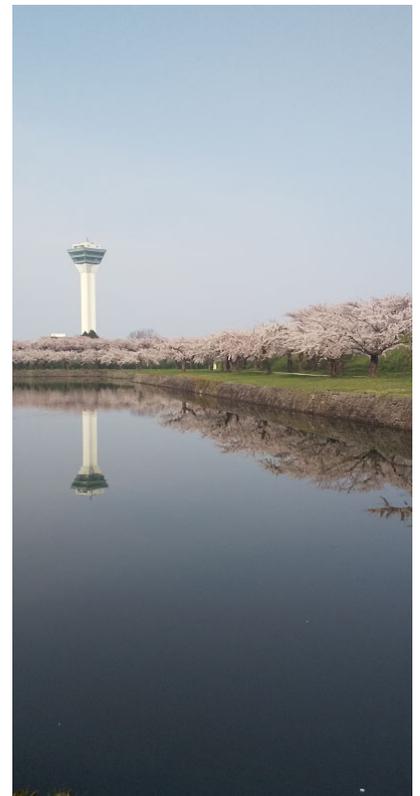
『池江璃花子さんから学ぶ』

5月9日（土）19時30分に特別番組「NHKスペシャル」で、『ふり向かずに前へ池江璃花子19歳』と題し、白血病からの復帰を目指す競泳女子の池江璃花子さんの闘病生活を乗り越えて再出発するまでの406日間が放送されました。

番組は、それまで数々の新記録を打ち立て、東京オリンピックでの大活躍を期待されていた池江さんが、突然白血病と診断され、その後、過酷な闘病生活を強いられる様子や、406日ぶりにプールへと戻り、再出発へのトレーニングをする姿が収められていました。…とても感動しました。本当に凄いなと思いました。今、新型コロナウイルスのために、夢や希望を見失って、肉体的にも精神的にも参っている人々を勇気づけるメッセージがこめられた番組でした。新型コロナに感染し病に苦しんでいる人に、大きな大会を目標に中学生生活、高校生活を頑張ってきたのに中体連・高体連・全日本吹奏楽コンクールなどの大会が次々と中止になり、目標を失って途方にくれている人に、将来の進路のために留学や勉強計画を着々と準備を進めてきたのに、それが揺らぎ始めてどうしていいかわからなくなっている人に、これからどのように生きてらいいのか、一つのモデルを示してくれていると思います。

池江さんは闘病中を振り返り、「**起きていることがしんどいっていうか、もはや生きてることもしんどいレベルで体調は悪かった。こんなに苦しいんだったら死んだ方がいいんじゃないか**」と本音を漏らしていました。放射線治療のために一時期は髪の毛もなくなりました。トップアスリートとして鍛え上げた身体は10kgも痩せて見る影もなく、感染症の恐れがあるため、自分の居場所だったプールに足を入れることさえできない日々…。でもそこから、一歩ずつ、前に進もうとしました。まず病気を治すことに専念し、かなり回復したところで退院した後は、大学の授業にも出席し、腕立て伏せや懸垂、マシンの自主トレーニングを積んで、顔を水につけないことを条件に406日ぶりにプールに入ることを担当医師から許されました。プールに入った時には「めっちゃ気持ちいいんだけど、やばい」と興奮し、プールに生まれて初めて入ったかのような喜びを見せていました。その時に25mのタイムを計っていましたが19秒41でした。かつては13秒で泳いでいたそうです。

池江さんは「**どん底まで行った人間が、ここまで上がってきたという成長を、ちょっとずつでもいいから見せていければ…特に、病気の人たちに伝えて元気づけたい。それが自分の使命です。**」と今後について語っていました。これから再放送もあると思いますので、多くの遺愛生に見てほしいと願っています。



五稜郭公園の桜